



小麦アレルギーと税金のつながり

大田区立雪谷中学校 三年 仲田 愛

私が小さい頃から持っていた小麦アレルギーは、命に関わるほど深刻なものであった。小麦粉を口にすると、ひどいアレルギー反応が起き、命が危険にさらされることがあった。症状が悪化すると、何度も病院に行き、入院した。私の生活には常に食事制限があり、「何を食べるか」ということは大きな問題だった。

ある日、誤ってアレルギー物質を摂取してしまったことがあった。体調が悪化し、病院に行って、注射や点滴を受けたが、大事には至らなかった。その時、治療を受けたにもかかわらず、医療費がかからなかったことに驚いた。調べて見ると、私が住んでいる地域には児童医療費助成制度があり、この制度によって支えられていることを知り、税金の重要性を実感した。

また、学校の給食も税金で支えられていることを知った。小麦粉を食べられないため、通常の給食を食べることができなかったが、除去食や代替の食事を用意してもらった。これらにより、楽しく給食を食べることができた。他の生徒と同じメニューを食べることの安心感は、学校生活において大きな支えとなり、友達との交流も深めることができた。

私一人のために多くの人たちが支えてくれていることを思うと、感謝の気持ちでいっぱいになる。そして、その支援の土台には税金という仕組みがあることを知り、税金の大切さを実感した。

今では税金を納めることが当たり前になり、「税金は負担だな」と感じる人も多いかもしれない。しかし、税金がどのように使われているか理解し、その重要性を認識することが大切だと思う。税金はただお金をとられるものではなく、誰かの命や生活を守るために使われている大切な資源なのだ。私も安心して過ごすことができた。

これから先、大人になり税金を納める立場になったとき、私は自分が多くの支えを受けてきたことを忘れず、社会の一員として責任を果たしていきたい。そして、税金がどのように使われているのかに関心を持ち、無駄なく必要な人々に届く社会であってほしいなと願っている。今度は、自分がうけてきた支援を次は他の人々に返す番だと思う。税金が無駄なく活用され、困っている人々が助けられる社会を築くために、私は自分のできることを考え、行動していきたい。社会全体が助け合える環境を作っていこう。